

夕刊 警城時報

編輯兼發行 岡田弘成
印刷所 加納活版所
發行所 警城時報社
一部金貳圓 一ヶ月金拾圓
廣告料一行十二字拾五字
日刊(日曜祝祭日)翌日休刊

平市明年度豫算は 五十二三三萬圓か

市當局頭痛鉢巻

平市明年度豫算は市制實施當で、商業學校新築費が計年初の豫算であるため各方上され、ば五十萬圓を突破面共審重の態度で調査を遂ぐるものと見られてゐる。に計上するに至つた金額は前年同様一月平均十八圓程に計上するに於て豫算歳入方面に於ては戸數割は

歳入約五萬圓不足で
經常費 臨時費 一萬七千圓は計上せず、義
△土木費 一、八三三、五五九
△警備費 三、〇〇〇(合計)
△水道費 三、〇〇〇(合計)
△警備費 三、〇〇〇(合計)
△水道費 三、〇〇〇(合計)

最難關を豫想された 警備費圓満に決定

明年度豫算編成に當り最難日委員を開き總額一、二〇〇〇〇圓と見られてゐたのは警備費に決定したもので、圓費で、消防組では一萬九千圓の決定に青沼市長も安余圓を要求したが警備委員塔の胸を撫でおろしてゐる

△大谷氏病む 平市 十二年度の優良漁船の表彰式を行なつたが、十二年度 漁獲高は八十四萬三千五百 千九百十六圓五十四錢

來る十一日建國祭に 全市を愛國行進

四日具體的協議

平市では四日建國祭實施に長、平町會議員等を動めた關する委員會を開き種々協

議するが、大體前年同様二 月十一日午前十一時から中 小學生各種團體行列の下に 第一小學校庭で「建國祭」

土木の 臨時工事

土木費の臨時工事の重なるものは田町、白銀町、三丁 目の舗装工事費半額、三丁 目から五丁目に至る本町通

飛行練習生に 四君合格

平市古銀治町八豊田豊(十 九)田町二七河野和平(十 八)銀治町二七吉田伴四郎

汽罐燃料持久 講演と座談會

講演と座談會

座談會は午後三時から 會議室に開き、午後三時 會議室に開き、午後三時 會議室に開き、午後三時

二萬五千〇四十六圓八 三錢 小型船八十一艘 三萬三千三百六十五圓七 十二錢

娼妓に さらされて亂暴

さらされて亂暴

警備委員切夫内郷村高坂 居住志水淺吉(三八)は二日 夜市内鎌田遊廓住吉樓に登

優良漁船表彰式 昨年四倉濱の水揚高

八十四萬三千圓に達す

四倉漁業協同組合に於ては 彰船主名及船長等左の如し 三十一日午前十一時より同 町女子青年學校に於て昭和

△春職(揚繰船等) 一等八千二百〇九圓八十一 錢、船長丸船主田中菊 太郎、船長同八、二等六

平市の就學兒童 現在で七百四十九名

現在で七百四十九名

平各小學校本年の就學兒童 (昭和六年四月二日より七 年四月一日迄出生の者)は

第一校 二一一人 第二校 一九九人 第三校 男一八 女一一八 第四校 男四三 女五二

合計七四九名で来る二十日 前後に就學通知を行ふが未 だに届出でを怠つてゐるた だに市役所の調査に洩れてゐ る者多數ある模様で入學期 迄には更に増加するものと 見られてゐる。

○船主通野龜之助 同小型船 一等九百〇六 圓十四錢 明神〇船主山口 慶彦 同傳馬船一等一千 三百〇四圓五十五錢 盛漁 〇船主佐藤善平 二等一 千〇九十八圓八十七錢 大 漁〇船主額賀留吉 三等 一千〇八十三圓六十八錢 大 漁〇船主大河原二郎 縣 水産會より表彰せられた ものは船主石井鐵三郎、船 長高野政吉

☆四倉町より表彰者 石井鐵三郎 高野政吉 優異商人 濱田幸次郎外 三十二名 精勤漁夫 大野正、鈴木 淺次、岩井香次郎、鈴木 良平、橋本末吉、岩崎末 造、石井中幸、福原武 加藤武雄、鈴木清、出羽 美明、小泉義雄、政井鶴 次、渡邊岩吉、菅原熊太 郎、機關士鈴木鐵雄、東 間久三、竹田本司

文魁文堂 代理店 優勝印高級リロパン ドンコ帳簿 デリカ人名簿

ウエル萬年筆 ムツリニーペン ゼネラルカーボン紙

腫物の妙藥 八方散 水野藥局 平市幸電六九九

